



神戶青年

Y M C A NEWS

No. 593

2009. 3

March

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/坂本 庸秀
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷

三田センター
宝塚センター
西宮YMCA
神戸YMCA三宮本館
須磨YMCA
西神戸YMCA
西神南センター
YMCAちとせ幼稚園
西神戸YMCA幼稚園
YMCA保育園
西宮YMCA保育園
余島野外活動センター



神戸YMCA
年間聖句

あなたがたの光を 人びとの前に輝かしなさい。
(マタイによる福音書 5:16)

去る2月7日(土)、「第6回平和のための子ども巡回絵画展」オープニング・イベントが、出展者ご家族・YMCA関係者・イベント出演者・一般の方々総勢約150余名の参加のもと、原田の森ギャラリーにて盛大に開催されました。イベントでは、皮切りに西神戸YMCA幼稚園の子どもたちと保育士の皆さんが愛らしい歌と踊りを披露。続く民族芸能紹介では、神戸中華同文学校・民族舞踊部の皆さんによる華やかな扇の舞、神戸朝鮮初級学校・舞踊部の皆さんによる力強い重舞、そしてタッサニー村木先生が主宰するタイ・民族舞踊教室の子どもたちによる鮮やかな



この巡回絵画展は、2003年天津YMCAの呼びかけで始まり、今年は5ヶ所のYMCA(天津、釜山、チェンマイ、セントルイス、神戸)が参加、「We Love Peace」をテーマに各国の子どもたちが描いた絵画が、半年かけて各国を巡回します。神戸では、2月7日(土)から15日(日)まで、5ヶ所の子どもたちの絵画に加え、飛び入りでエジプトの子どもたちの絵画も加わり、約200点余りの絵画が展示されました。

タイの舞踊に、大きな拍手と感嘆の声、最後に参加者全員で平和のメッセージを描きました。



第6回 平和のための 子ども巡回絵画展 開催!



【ワイズメンとリーダーのディベート】

2009年1月17日(土)新春Yフォーラムが開催されました。神戸YMCAとワイズメンクラブ六甲部の共催で例年行われている今年のフォーラムは「生きる力ってどんな力？」をテーマに進め

開会式では、「阪神・淡路大震災」での体験から、人びとからの愛と、人びとへの愛について、またスリランカ出身の日本語学校学生からは「今も続くスリランカでの戦争」が起す、夢を失われる(奪われる? 描けない?) 青年たちの現実。についてのメッセージを受けました。会場には、がれき、をイメージしたモニュメントが置かれ、切り株とキャンドルが、切り株に萌え出でる若枝と、人びとの希望の光、すなわち「人びとの生きる力」を表わしていました。そして、「生きる喜びはお金? それとも愛?」をテーマに、愛とお金、の価値について、ワイズの方々とのユース・リーダーによるディベートが行われました。リーダーたちは人生経験豊富なワイズの方々には敵わないようすでしたが、リーダーたちには人前で即座に答えを出す良い経験になりました。その後、スタッフも交えて10グループにわかれ、「生きる喜び」について話し合い、グループごとに発表しました。発表では、まとめたことを船に例えて発表したり歌にして歌ったりするグループもありました。さまざまな世代・人生経験の方々との交流の機会と



【グループ発表】

なっただけでなく、愛とお金、の価値について真剣に考えるすばらしい機会でもありました。

イースター早天礼拝のご案内

日時: 2009年4月12日(日) 午前7時~
場所: 神戸東遊園地(雨天: 神戸YMCA)
奨励: 日本キリスト教団 鈴蘭台教会
大仁田 拓朗 牧師

訪れた方々は、平和を希求する心は万国共通という感を得、それぞれの子どもたちのお国柄・発想の相違を楽しんでいました。



「子どもと若者の「いのち」が光り輝くように」これは神戸YMCAの願いです。彼らのいのちが光り輝き続ける為には私たちは安全で健全に生活できる社会を創り、彼らに引き継ぐ責務があります。しかし最も大切な事は溢れ出るようなエネルギーをこどもたちが自ら持ち続ける力を獲得する事です。◆指示された事にはすばらしい能力を発揮するのには自ら創意工夫が出来ない指示待ちや、不測の事態に的確な判断が出来ずパニックになる若者が増えたと感じるのは私だけでしょうか? 神戸YMCAでは2007年より「森と水の学校」「水育」を展開するサントリ(樹)と、自然環境の中でこどもたちがさまざまな体験・体感を通じて成長していく過程をサポートする「余島プロジェクト」を立上げ多くのこどもたちが参加しています。◆準備されたプログラムを体験・体感することはもちろん大切ですが、自分たちと与えられたテーマを試行錯誤しながら考え、創意工夫をする力を養うことができる。◆テーマはいくらでも有ります。地球温暖化、環境汚染、廃棄物、エネルギー、水、リサイクル等々◆そのキャンプを支えるものは、昨年5月天に召された近江岸建助氏が「まさのよ様な人になろう」と余島に来るこどもたちを前に自分の身を焦がして廻りを暖かく、明るく照らすと語り伝えた精神です。
(岡田 佑一郎)

神戸市では2008年5月に環境サミット（G8環境大臣会合）が開催されました。
 神戸YMCAでも2008年度の強調点として、環境課題への取り組みを通して、「いのち」の輝きを求め、平和を希求する働きかけを掲げています。
 神戸青年でも今月号より、「神戸YMCAの考える環境」と題して様々な環境に対する取り組みや、発信をシリーズで展開しています。

『テーマ』

- 2008年 7/8月号 : 資源について～クリーンキャラバンの取り組みから～
- 〃 9/10月号 : 環境プログラム・環境キャンプ～サントリー・コープこうべとの共働から～
- 〃 11/12月号 : 子どものからだところの育みから
- 2009年 1/2月号 : 地球・汚染
- 〃 3月号 : ～人口・国際・平和～



平和ってなに色？



写真：著者と祖母 1972年頃 ロスの祖母宅前にて

神戸YMCA国際活動委員
 ロニー・アレキサンダー

平和が大好きなねこ「ポーポキ」が聞く。「平和って、なに色？」

私は高校生の時、祖母の話聞いて、平和の新たな色を知った。それは地図を祖母に見せながら「アメリカに来る前にお祖母ちゃんが住んでいた村はどこ？」と聞いたときだ。

祖母は13歳のときに、英語を知らないままたった一人で東ヨーロッパからアメリカへ移民した。祖母を含めてユダヤ人が当時、ヨーロッパで迫害を受けていたので、彼女は一足先にアメリカへ行った。生活の基盤ができたところ家族を呼ぶ予定だった。しかし、それが

できる前にヨーロッパが戦争に突入した。故郷に残っていた家族や友人たちをはじめ、住んでいた村そのものがドイツの侵攻を受け、人々は殺され

たか強制収容所へ送られた。村が完全に破壊されてしまったため、私が地図を見せたとき、その村はとくに地図から消えていたのだ。

戦争はたくさんの方を犠牲にし、家族や友人を離れ離れにさせ、恐怖や孤独を押し付ける。しかも戦争が終わっても人々の悲しみは終わらない。

現在の戦争は、祖母が体験した戦争よりも一般市民を犠牲にし、遠く離れたところにも影響を与えている。例えば、テレビで毎日報道される戦争や暴力の映像を見ているうちに

それが「当たり前」になってしまっている。私も無意識に暴力を肯定するようになる。平和の色に暴元の色が薄くなり、見えなくなったりする。

私たちの「平和」の暮らしにも、そうやって無意識に暴力の色がかかっている。「安全」を求めているはずの社会が暴力化してきており、薄汚れた色になってしまっている。本当の平和の色を創造するには、暴力の色を必要だ。遠い場所での暴力も身近な暴力もみなで力を合わせてそれを鮮やかな平和の色に変えてみよう！自分の周りの暴力をどんな平和の色にするのかなあ。どんなポーポキちゃんに報告してね。

みなが創った小さな平和が少しずつ重なって行く。大きな平和になり、やがて世界の平和になる。ポーポキ、平和の色って、みんなが創った色かもしれないね。

好評につき第2版が3月発売決定！
 「ポーポキ 友情ってなに色？ ポーポキのピースブック2」
 お楽しみに！



冬になると 寒がりのポーポキは たっぶり食べて ホットカーペットで くつろぎます
 おなかをすかせたポーポキの仲間は ふるえながら 公園で春を待ちます。

あなたの平和は ほかの人の平和と関係がありますか？
 相手が平和でないとき あなたは 平和になれる？

感謝

【第11回チャリティーラン】

11月3日(祝・月) 神戸しあわせの村
 参加者942名
 収益 3,530,400円

【西神戸YMCA保育園 開園の祝い】

・クリスマス イエス生誕の人形
 ・他人形セット(ドイツ製)
 神戸西ワイズメンズクラブ

【寄付金】

演 浩一、清水泰人、富川和彦、
 関西学院大学神学部キリスト教教育研究会、
 江原伯陽
 (敬称略・順不同、11月21日～1月31日)

神戸YMCAコミュニティーサービスセンターより
神戸市立西体育館の紹介

西体育館は、市営地下鉄「西神中央駅」からバスに揺られること15分、神戸西消防署に隣接し、西神ニュータウンと共に発展をしてきました。昨年5月に20周年記念イベントを開催しました。

当日はYMCAのスタッフの仲間も駆けつけ、輪投げや〇×ゲーム、西体マラソンなどを行いました。

これまでに紹介してきた、地区体育館同様に、指定管理者制度のもと神戸市体育協会と共同で管理・運営を行っています。西体育館はトレーニング室や様々な競技で賑わっており、バドミントンや卓球、バレーボールなどはもちろん、剣道や少林寺拳法、バレエや社交ダンスも行われています。また、教室も充実しており小学生対象の「体育が好きになる教室」、1～2歳児対象の「親子体操教室」や「卓球・バドミントン」そして西体育館の看板教室の「健康トレーニング」があります。『平日に来ない日は無い』という利用者もいるほどで、日々活気で溢れています！スタッフも『加古川市民レガッタ』に参加し、種目別優勝に輝くなどチームワーク抜群です！こんな西体育館にぜひ遊びにきてください。



～「人を育てる」国際協力募金～



王 麗麗さん

国際協力募金には様々な用途がありますが、その中の1つに「YMCA奨学金」として神戸YMCA日本語学校で学ぶ就学生の援助のために役立らせていただいています。

学園都市にある日本語学校には、中国・韓国などから来た50名余りの学生が、主に日本での進学を目指して日本語を勉強しています。学生のほとんどが、本国の家族から仕送りを受けながら、物価高の日本で生活、勉強に頑張っています。

その中の学生で、今年度奨学生となった王麗麗（おう れいれい）さんをご紹介します。

麗麗さんは2007年10月に中国山東省の威海から初めて海を渡って来日、この学校で勉強を始めました。麗麗さんが日本に興味を持ったのは、日本で働いたことのある近所の人から日本の話を聞いたのがきっかけでした。高校に入って日本語の勉強を始めましたが、先生や先輩からさらに日本の話を聞いて、日本へ行きたいという気持ちが強くなったそうです。

中国にいるときに持っていた日本人のイメージは、「礼儀正しい」「ファッションが素てき」だそうです。日本で生活するようになって、道に迷ったり、財布を落としたりして、困ったときもありましたが、そんな時は必ずそばにいた知らない人が助けてくれ、「日本人は親切だ」という思いを強くした、と話してくれました。（ちなみに麗麗さんも、とても礼儀正しくておしゃれな女の子です）

日本語学校の授業は楽しく、中国の違う地方や違う国から来た友だちと、優しい先生方に囲まれて毎日頑張っている。奨学金がいただけると聞いたときは信じられなかったようで、アルバイトも減らすことができ、勉強時間が以前より長く取れるようになったとのこと。今、ホテルやブライダル関係の仕事に興味を湧いてきているので、日本語学校を卒業してからも日本語の勉強を続けて大学進学を目指し、ゆくゆくは日本のホテルで働くことができると夢を持っています。

近年、職場の中にも「多文化共生」は自然に進行している。わたしの事務所にも、従来からの英語教員のアメリカ、カナダの人々だけでなく、中国籍の人、韓国籍の人、日本の大学、大学院を卒業して就業している。それらの人の多くは海外に家族がいる「ひとり暮らし」である。若い人が多い。その人たちが食事に行くなどの「ひとりで」の「多文化共生」は、日本人の「多文化共生」である。その「多文化共生」は、日本人の「多文化共生」である。その「多文化共生」は、日本人の「多文化共生」である。

ソナタ
奏鳴曲 No.36



総主事 水野雄二

自治会長、やっています！

神戸では、この1月17日に14年目の震災の日を迎えました。地元では様々な記念行事や追悼の会が行われましたが、新聞にも関連記事の紹介がありました。災害時に初期消火や救助にあたる地域住民の「自主防災組織」が全国の7割で組織されたとありました。阪神淡路大震災のときも救助された方々の多くは地域の隣人による救助であったことを思い出します。

神戸市も昨年、自主防災組織の組織率100%達成とありましたが、住民の3割以上がその存在を知らないということで、有名無実の組織であっては「いざ」のときの備えになるのか、心もとない気がします。

YMCAとは無関係ですが、私は現在、居住する地域の自治会長を仰せつかって、仕方なく務めを果たしています。掲示板の管理や回覧板の配布、夏冬には防犯防災のための夜回りをし、夏祭りでは警備の立ち番を。また、夏前の草刈り清掃や新年会のお世話、地域の防災組織の会合や訓練の出席など、結構忙しく自治会長をやっています。仕方なく始めたことながら、活動を通して様々なコミュニティの実態がリアルに見えてきます。周辺地域の自治組織が壊れつつあることや地域の高齢化がすすまじく進展していること。そして、隣人を良く知ることができました。A家のご長男は今年、高校受験。B家には95歳のおばあちゃんが寝たきりだ、と言うように。

神戸YMCAも訪問介護やデイサービスのプログラムを展開していますが、ますます進む高齢化社会における地域のステーションとしての働きが問われているように思います。夏祭りで立ち番のボランティアをしていたとき、まったく知らないおばあちゃんが「暑いやろう？」と言って、よく冷えた麦茶を持ってきてくださいました。コミュニティが幻想ではなく、まだまだ、共生共助の場として機能できると信じたくなるひと時でした。「ありがとうございます、おばあちゃん！ ご親切に…」

「国際」というと海外に行くこと、と連想する人が多い。「内なる国際化」という言葉が、15年ほど前に唱えられ、国内に在りて、滞在する外国人の目に向けることの重要性が意識されはじめた。

「わたし、それ違うと思う」という言葉には、「あなた間違っている」という意味が込められている。英語のおつは、「Different」と「Mistake」「Error」は「異なる」「意味を持つ」だけなく、言葉そのものに共通性が見られない。つまり英語の世界では「違い」と「間違い」が混同されたり、意味が含まれることがない。むしろ違っていることに価値を認める傾向があるほどのようだ。

- ウエルネスセンター三宮 ☎078 (241) 7202
- YMCAホームヘルパーの事務所 ☎078 (241) 7237
- ランゲージセンター ☎078 (241) 7204
- 専門学校 ☎078 (241) 7203
- 西宮YMCA ☎0798 (35) 5987
- 三田センター ☎079 (559) 0075
- 余島野外活動センター ☎0879 (62) 2241
- 国際・奉仕センター ☎078 (241) 7204

KOBE
YMCA
GOAL 2011
Information

- ウエルネスセンター学園都市 ☎078 (793) 7401
- 西神戸YMCA ☎078 (793) 7402
- 西神南センター ☎078 (993) 1560
- 須磨YMCA ☎078 (734) 0183
- YMCA保育園 ☎078 (794) 3901
- 西宮YMCA保育園 ☎0798 (35) 5992
- YMCAちとせ幼稚園 ☎078 (732) 3542
- 西神戸YMCA幼稚園 ☎078 (997) 7705



12/14 国際協力募金 街頭募金 (大丸前にて)

第20回
チャリティーゴルフのご案内

- ◆とき：4月21日(火)
- ◆場所：千刈カンツリー倶楽部
- ◆参加費：¥20,000
- ◆お問い合わせ先：
神戸YMCA カレッジ
078-241-7204

ありがとうリーダー

今年も学生時代の貴重な時間と力を捧げ、YMCA活動の担い手になってくださったボランティアリーダーの皆さんが巣立っていきます。リーダーのご奉仕に心から感謝すると共に、奉仕活動を通して彼らが得たものがこれからの糧になることを願っています。以下はこの春に卒業するリーダーの皆さんです。(順不同)

- <三田>万壽本寛之 力本悠 福留千絵 津田正憲 森口明美 奈良元優子
- <西宮>穴吹悠 栗井美衣 稲留瑞恵 桂裕美 金澤史保子 河邊明希 小坂真未 堺美津穂 坂本陽子 田村明子 辻井敬子 平本あかね 広岡千春 藤井寛彦 細川房子 細見衣美佳 三隅仁美 村松加清 米田優里奈
- <三宮>石原久子 出雲寛子 井上貴博 遠藤真理子 大原あゆみ 大藤真奈 川口真莉絵 澤田衣里 澤田さやか 三木沙織 柳秀佳 渡辺はる美 国分由紀子 村上祥子 吉川瑛太郎
- <三宮幼少年>植田いつみ 稲葉勇城 田村亮太郎
- <国際>伊達千浪 大和尚生 湯前梨花
- <西神戸>小倉一見 金井怜美 柴山裕子 玉野友香 島本茉莉 西井文哉 信政友輝恵 藤本崇史 向井元 森垣さつき 柳田優
- <余島>上田隆敏 笠井一貴 城垣和承 瀧見和彦 辰巳稔治 辻本航介 橋村心平 藤田昌志 松田崇志 安田良平 内田裕之 住本卓 石坂良子 池田あゆみ 小澤千明 貝原真理 楠本早希 桜井さやか 曾根歩 平田信恵 増岡重美 水上まり 満尾絵理 米田重紀子 森幸子

5 3 ひときわ献身的な働きをした職員・講師を表彰する制度があります。2008年度は、5名のスタッフが1月5日の新年職員礼拝にて武田寿子会長より表彰されました。

★★ 個人消息 ★★

- 受洗■ おめでとうございます
小林智恵子さん (YMCA保育園)
12/21 日本基督教団西神戸教会にて
中野卓磨さん (CSC・文化体育館)
12/21 神戸新生教会にて
- ご結婚■ おめでとうございます
門田真理子さん (カレッジ) 1/11
佐久間大介さんと
- お誕生■ おめでとうございます
佐久間眞人さん
(CSC・須磨体育館)
ご長男 和人君 1/5
- 退職■ おつかれさまでした
高橋春幸さん (西神戸ランチ) 1/31
笹倉賢之さん (本部事務局) 1/31

池田 英基さん (CSC東灘体育館 主事職)

東灘体育館の主任として館長、事務職と連携して現場スタッフをまとめ、同体育館の評価が3から4(5段階評価)となる原動力になりました。また、地区体育館4館のリーダー的存在として、多くのスタッフから信頼を得、各館の課題解決や研修なども推進されました。

佐藤 香菜子さん (三宮ランチ 事務職)

いつも皆の業務からこぼれ落ちる整理整頓を人知れずし、またちょっとした気づきを皆に発信してくれるなど、全体をさりげなく支える貴重な働きをされました。事務所の人員が不足する夏期なども、落ち着いて周囲に目を配りしっかり支えてくださり、全体に落ち着きと安心、潤いを与えてくださいました。

代石 健一さん (余島センター 嘱託職員)

余島の顔、2代目オリーブ丸の船長として、毎年1万人近いお客様を安全に送迎し、荒れ狂う海も珍しくないほど厳しい自然環境の中で、冷静に状況を判断し、徹底した安全管理の下、人命第一で対処しています。閑散期には痛んだ舟艇類の修理や、枯木の伐採、施設の修繕など、時間をかけて丁寧にメンテナンス業務を進めてくださっています。

関 博さん (カレッジ 専任講師)

多くの留学生を抱える日本語学科として、初めての中国出身スタッフであり、優秀な日本語力によって通訳者として学生ケア、特に生活面・心理面のサポートに取り組まれました。学校業務全般をこなし、学生への面接補助に加え、新規入学希望者選考のために、現地中国での試験、面接、書類審査などを行い、申請業務の推進にも大きな力となりました。

落合 由香さん (西神戸ランチ 専任講師)

サポートプログラムの中心的な存在として、学校では理解されにくいメンバーの社会性や学力を養うため、一人ひとりに合わせたクラス準備を丁寧にされています。メンバーだけでなく、保護者に向けても丁寧なケアで信頼を得ています。また、西神戸だけでなく西宮のクラスも担当したり、LD学会や講演会など神戸YMCA全体としてサポートプログラムの推進役として活躍してくださりました。

